

地方創生先行型事業評価シート

	担当課	総務課企画係	事業NO.	1
総合戦略における基本目標				
総合戦略における重要業績評価指標(KPI)①	現状 H26年度		目標 H31年度	

事業名②	下諏訪町総合戦略策定事業			
目的	町民と行政が協働で地域を活性化し、町民が「住んでいることに誇りを持てるまち」、町外の方が「住んでみたいまち」を目指すため「下諏訪町総合戦略」を策定する。			
実施内容	・総合戦略策定			
本事業における重要業績評価指標(KPI)	本事業におけるKPIに対する成果			
達成度	A:達成	B:概ね達成	C:未達成	A

事業費

(単位:円)

総事業費	1,998,000	交付金充当額	1,700,000	交付金対象外経費	298,000
------	-----------	--------	-----------	----------	---------

平成27年度の取り組みと課題

<p><取り組み> まち・ひと・しごと創生法に基づく「市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定 ・町民、職員等17人による「地方創生・まちづくりプロジェクト」を組織し、会議を10回開催し、素案を策定。 ・「ひとの絆と心の豊かさを育む 下諏訪町未来を創る総合戦略」と名称を決定して素案を町長に報告後、総合計画審議会を総合戦略有識者会議に位置付けて諮問。審議回数3回。 ・平成28年2月に総合計画審議会から町長に答申、同月議会報告。</p>
--

今後の取り組み

<p>引き続き、「下諏訪町 未来を創る総合戦略(平成27年度～平成31年度)」に基づく取組を進めます。</p>

本事業は具体的な効果の発現を期すものでないため、記載なし。

外部有識者の効果検証

<p>A: 総合戦略のKPIのH31年度目標達成に向けて有効であった B: 総合戦略のKPIのH31年度目標達成に向けて有効とは言えない</p>	
---	--

外部有識者の意見

<p>・出来ることから確実に1つずつ進めていただきたい。 ・今後の国、県、諏訪圏域の動静に合わせて見直しをしていくことを要望する。</p>
--

地方創生先行型事業評価シート

	担当課	総務課情報防災係	事業NO.	2
総合戦略における基本目標	基本目標4 町の宝を活かし、住民が気持ちよく暮らし、訪れる人がまた来たくなる下諏訪町をつくる【活性化】			
総合戦略における重要業績評価指標(KPI)①	町外国語ホームページアクセス件数	現状 H26年度	282件	目標 H31年度 500件

事業名②	下諏訪町ホームページスマートフォン対応改修事業			
目的	町の多くの情報を公開しているホームページのうち、アクセス機会の多い一部のページについてスマートフォン対応を行い、町の情報を収集する外国人観光客等の利便性を向上させ、観光振興に役立てる。			
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 町ホームページのアクセス数の多い一部のページについて、スマートフォン対応の改修を行う。 スマートフォン対応後には観光事業で御柱祭に向けた各種パンフレット・チラシ等に記載し県外への周知を行い、また町観光施設での掲示等の周知を行うことを検討している。 			
本事業における重要業績評価指標(KPI)	町外国語対応ホームページ(英・中・葡)アクセス件数:500件	本事業におけるKPIに対する成果	町外国語対応ホームページ(英・中・葡)アクセス件数:3,088件	
達成度	A:達成	B:概ね達成	C:未達成	A

事業費

(単位:円)

総事業費	2,160,000	交付金充当額	1,500,000	交付金対象外経費	660,000
------	-----------	--------	-----------	----------	---------

平成27年度の取り組みと課題

<取り組み>

- スマートフォン対応に改修したことで、町ホームページの閲覧数は、過去最高の614,811回を記録するとともに、総訪問者数も、391,481人と過去最高であった。
- モバイル利用率は40.85%であり、閲覧者の半数近い方々には、これまで以上に「見やすく」「わかりやすい」情報の提供することができた。

<課題>

- SNSについては、未だ対応できていない状況であることから、今後はSNSを活用した双方向性の情報の受発信について検討をしていく。

今後の取り組み

- 平成28年度においては、上記の課題でも記述した、SNSへの対応を行う。
- SNSを活用することで、住民目線の情報発信を行うとともに、よりリアルタイムで更新頻度も高く、双方向性の情報を受発信することが可能となるとともに、災害時の活用も出来ることから、早急な対応を行う予定である。

外部有識者の効果検証

- A: 総合戦略のKPIのH31年度目標達成に向けて有効であった
B: 総合戦略のKPIのH31年度目標達成に向けて有効とは言えない

A

外部有識者の意見

- 観光客の情報収集はスマートフォンで行うことが多いため、非常に有効である。
- 町のホームページから情報を得る人が多く、外国人も同様である。
- 時代の流れに対応し、SNS等を上手に活用していくことを望む。

地方創生先行型事業評価シート

	担当課	健康福祉課保健予防係	事業NO.	3
総合戦略における基本目標	基本目標4 町の宝を活かし、住民が気持ちよく暮らし、訪れる人がまた来たくなる下諏訪町をつくる【活性化】			
総合戦略における重要業績評価指標(KPI)①	健康スポーツゾーンを活用した講座開催回数及び参加者数	現状 H26年度	未実施	目標 H31年度 開催回数:12回 参加者数:100人

事業名②	健康スポーツゾーン活用プログラム委託事業			
目的	当町では諏訪湖畔を活用し、町民や来町者の健康維持・増進を図る目的で「健康スポーツゾーン」の整備を進めている。温泉を活かした健康増進施設や湖畔の健康器具などハード面の整備が進む中、それらを活用した健康講座を開催することでより一層の健康増進と地域の活性化を目指す。			
実施内容	・町が諏訪湖畔に整備を進めている「健康スポーツゾーン」を活用した健康講座プログラムの開催			
本事業における重要業績評価指標(KPI)	健康講座プログラム開催回数:12回 参加者数:100人	本事業におけるKPIに対する成果	健康講座プログラム開催回数:12回 参加者数:169人	
達成度	A:達成	B:概ね達成	C:未達成	A

事業費

(単位:円)

総事業費	972,000	交付金充当額	700,000	交付金対象外経費	272,000
------	---------	--------	---------	----------	---------

平成27年度の取り組みと課題

<取り組み>

みずべフィットネスの開催(6回シリーズ×2クール実施)

- ・湖畔の健康器具(15基)を活用した運動プログラムを構築し、健康体力づくりの健康講座を開催。
- ・リーフレット「みずべフィットネス15」(H26年度作成)に記載している運動を中心に、筋力トレーニングと諏訪湖畔のウォーキングによる有酸素運動に取り組んだ。
- ・夫婦での参加もあり、家族で健康推進に関心を持って取り組む様子が見られた。

<課題>

- ・参加者は高齢者が中心。40代、50代の中年層や、男性の参加者をもう少し増やしたい。

今後の取り組み

- ・構築した運動プログラムを定期的に見直しながら、参加住民の現況に寄り添った健康づくりを推進する。
- ・健康講座に参加できない方向けに運動プログラムを町ホームページ上で紹介し、個人で取り組めるようにする。
- ・運動プログラム紹介のリーフレットの班回覧または全戸配布を行い、事業を広く周知していきたい。

外部有識者の効果検証

- A: 総合戦略のKPIのH31年度目標達成に向けて有効であった
B: 総合戦略のKPIのH31年度目標達成に向けて有効とは言えない

A

外部有識者の意見

- ・すでに平成31年度の目標を達成しているため、目標を再設定する必要がある。
- ・平日日中の開催のため、参加できる人が限られてしまう。子どもや勤労者も参加できるように検討してほしい。

地方創生先行型事業評価シート

	担当課	産業振興課観光係	事業NO.	4
総合戦略における基本目標	基本目標2 多様な人材が交流しながら、町の資源や価値などの魅力を創造し、ビジョンを共有することで、人口の社会増への転換を実現する【人の流れ】			
総合戦略における重要業績評価指標(KPI)①	観光消費額及び宿泊者数	現状 H26年度	観光消費額:28億 宿泊者数:178,400人	目標 H31年度 観光消費額:29.5億 宿泊者数:187,300人

事業名②	「お祭り広場」御柱木落体験コーナー設置事業			
目的	諏訪地域で7年に一度開催される「御柱祭」や地域の祭り文化が体感できる施設「お祭り広場」を建設し、御柱祭の観光拠点、そして御柱年以外でも通年御柱祭を体験・体感できる施設として整備していく。交流人口及び下諏訪町内の滞在時間の増加を期待するとともに、観光客に実際の御柱木落を疑似体験いただくためのコーナーを設け、都市部からの誘客を進める。			
実施内容	・「お祭り広場」施設内に御柱木落体験装置を設置する。			
本事業における重要業績評価指標(KPI)	観光客数のうち、滞在時間60分以上(お祭り広場来訪者)である者の割合を3分の1とする。	本事業におけるKPIに対する成果	観光客数のうち、滞在時間60分以上(お祭り広場来訪者)である者の割合:0%(おんばしら館よいさがH28年4月にオープンしたため)	
達成度	A:達成	B:概ね達成	C:未達成	C

事業費

(単位:円)

総事業費	25,542,000	交付金充当額	25,000,000	交付金対象外経費	542,000
------	------------	--------	------------	----------	---------

平成27年度の取り組みと課題

<取り組み>

お祭り広場施設内に木落体験装置を設置し、町の祭り文化を発信する。

今後の取り組み

- ・御柱祭の知名度を活用して、お祭り広場への観光客の誘客を図り、町が推進するまち歩き観光の諏訪大社下社春宮周辺の拠点とする。
- ・諏訪大社下社秋宮エリアと結んだ三角八丁エリアにおける観光客の回遊の促進を図る。

外部有識者の効果検証

- A: 総合戦略のKPIのH31年度目標達成に向けて有効であった
B: 総合戦略のKPIのH31年度目標達成に向けて有効とは言えない

B

外部有識者の意見

- ・新たな観光拠点施設を作り、既存の観光施設と線で結ぶ取組で評価できるが、新施設はまだ十分に知られていない。
- ・「おんばしら館よいさ」だけの誘客は弱い。PR等の戦略に工夫をいただきたい。

地方創生先行型事業評価シート

	担当課	教育こども課生涯学習係	事業NO.	5
総合戦略における基本目標	基本目標4 町の宝を活かし、住民が気持ちよく暮らし、訪れる人がまた来たくなる下諏訪町をつくる【活性化】			
総合戦略における重要業績評価指標(KPI)①	カヌー指導者を育成するための講座開催数	現状 H26年度	未実施	目標 H31年度 開催回数:6回

事業名②	いづみ湖公園カヌー事業			
目的	当町は2020年の東京オリンピック・パラリンピックの事前合宿誘致を目指しており、それを見据え諏訪湖でのカヌーを中心とした水上スポーツ交流人口の増加を目指している。平成27年度は前段階として町内の人工池「いづみ湖」にカヌーを整備し、いづみ湖公園を利用する観光客や町民が気軽に水と親しむことができるようにする。また、公民館講座としてカヌー教室を開催し、カヌーを通じた町の活性化を図る。			
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・カヌー及び運搬用台車の購入 ・観光客の誘客及び将来的なカヌー人口増加に備えた運営指導者育成講座の開催。 ・一般向けカヌー体験教室の開催。 			
本事業における重要業績評価指標(KPI)	カヌー講座の講座開催回数:2回 講座参加者数:40人	本事業におけるKPIに対する成果	カヌー講座の講座開催回数:2回 講座参加者数:24人	
達成度	A:達成	B:概ね達成	C:未達成	B

事業費

(単位:円)

総事業費	1,630,654	交付金充当額	1,300,000	交付金対象外経費	330,654
------	-----------	--------	-----------	----------	---------

平成27年度の取り組みと課題

<p><取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・カヌー10艇(1人乗り7艇、2人乗り3艇)、パドル、ライフジャケットを購入し、いづみ湖公園管理棟に配備した。 ・公民館講座としてカヌーサポーター養成講座をいづみ湖で2回開催し、12名が受講。カヌースクールのインストラクターから、正しいライフジャケットの着用方法、パドルの持ち方と漕ぎ方、艇の乗り降りの仕方などの基本を学び、実際にカヌーを体験して、初心者へ対する指導の基礎を学んだ。 ・諏訪湖クリーン祭や下諏訪レガッタ開催時に、諏訪湖でカヌーイベントを開催。養成講座を受講したカヌーサポーターが参加者への指導を行った。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・カヌーサポーターが活躍できる場を多く設けることが必要である。

今後の取り組み

<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度は、いづみ湖公園を利用する町民や観光客に気軽に水に親しんでいただくために、いづみ湖カヌー場をオープンした。 ・諏訪湖でのカヌーを中心とした水上スポーツ人口の増加を目指して、カヌーサポーターの指導によるカヌーイベントや教室を引き続き開催する。
--

外部有識者の効果検証

<p>A: 総合戦略のKPIのH31年度目標達成に向けて有効であった B: 総合戦略のKPIのH31年度目標達成に向けて有効とは言えない</p>	A
--	---

外部有識者の意見

<ul style="list-style-type: none"> ・いづみ湖は中心市街地から離れているため、諏訪湖も活用することを望む。 ・指導者の育成や一般向けの体験教室だけでなく、観光客向けの体験も必要である。

地方創生先行型事業評価シート

	担当課	産業振興課観光係	事業NO.	6
総合戦略における基本目標	基本目標2 多様な人材が交流しながら、町の資源や価値などの魅力を創造し、ビジョンを共有することで、人口の社会増への転換を実現する【人の流れ】			
総合戦略における重要業績評価指標(KPI)①	観光消費額及び宿泊者数	現状 H26年度	観光消費額:28億 宿泊者数:178,400人	目標 H31年度 観光消費額:29.5億 宿泊者数:187,300人

事業名②	DMO設立を視野に入れたビーナスラインを基軸とした広域観光事業			
目的	ビーナスラインを基軸とした沿線の観光地は、地理的に隣接しているが、広域観光の視点からの繋がりが希薄なのが実状である。そのため、県、関係7市町、趣旨に賛同する1市、関係観光協会等が「道路」をキーワードに連携することで各観光地を結び、観光事業者、民間団体の参画を広く求めながら広域的な観光ビジョンを策定し、戦略的な繋がりを持つ大きな塊により誘客、環境整備、自然保護、他観光エリアとの差別化を図る。			
実施内容	協議会として、上記の目的を達成するために将来的には広域におけるDMOとなることを視野に入れ、事業を展開していく。 ・広域観光ビジョンの策定に向けた基礎調査 ・一体的な情報発信によるビーナスラインブランドの再構築事業(誘客宣伝事業) ・受入環境整備			
本事業における重要業績評価指標(KPI)	事業者向けセミナー参加者数:30人 広域観光案内ガイド:10人 パンフレットの配備:100施設 アンケート実施:1,000人	本事業におけるKPIに対する成果	事業者向けセミナー参加者数:26人 広域観光案内ガイド:0人 パンフレットの配備:120施設 アンケート実施:1,244人	
達成度	A:達成	B:概ね達成	C:未達成	B

事業費

(単位:円)

総事業費	155,000	交付金充当額	155,000	交付金対象外経費	0
------	---------	--------	---------	----------	---

平成27年度の取り組みと課題

<p><取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・信州ビーナスライン連携協議会の設立。 ・広域観光ビジョン策定のための基礎調査を実施。現在のビーナスライン及びその沿線の各地域のエリアを代表する、または観光客が知りたいと思う観光資源の認知度や興味度を調査(GAP調査)した。 ・誘客宣伝事業として、パンフレット、ポスター、ロゴを作成した。 ・受入環境整備事業としては、基礎調査(GAP調査)結果の分析をもとに、各観光地の観光素材と観光趣向を把握することを目的に、広域研修会を開催した。
--

今後の取り組み

<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度に実施したGAP調査に基づき、ビッグデータを詳細分析することで、生の観光客の足取りや動態を協議会構成団体やビーナスライン沿線の関係団体等で共有・把握したうえで、ビーナスラインを基軸とした広域エリアの観光ビジョンを策定する。 ・沿線各観光地の知識、外国人旅行者受入能力、DMOの理解等の向上を図るため、研修会、セミナーを実施し、圏域のどこでも広域観光案内ができる体制の構築と、将来のDMO組織の中核として活躍できる人材育成を行う。
--

外部有識者の効果検証

<p>A: 総合戦略のKPIのH31年度目標達成に向けて有効であった B: 総合戦略のKPIのH31年度目標達成に向けて有効とは言えない</p>	A
--	---

外部有識者の意見

<ul style="list-style-type: none"> ・県、諏訪圏域、近隣市町村に加え、それぞれの観光協会、宿泊施設等ともより連携し、大きな視点で取り組む必要がある。 ・各地域の魅力ある多種多様な情報発信を行い、観光客の誘致につながることを期待したい。
--

事業NO.6の評価シート内における用語

DMO: Destination Management Organization(デスティネーション・マネジメント・オーガニゼーション)の略。観光物件、自然、食、芸術・芸能、風習、風俗など当該地域にある観光資源に精通し、地域と協同して観光地域作りを行う法人のこと。

GAP調査: 観光地にある様々なコンテンツ(地域資源・観光資源)について、認知度と興味度を調査し、今後より力を入れていくべき資源を洗い出すことが可能な調査のこと。

(参考)日本版DMO: 地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協同しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人です。

地方創生先行型事業評価シート

	担当課	産業振興課観光係	事業NO.	7
総合戦略における基本目標	基本目標2 多様な人材が交流しながら、町の資源や価値などの魅力を創造し、ビジョンを共有することで、人口の社会増への転換を実現する【人の流れ】			
総合戦略における重要業績評価指標(KPI)①	観光消費額及び宿泊者数	現状 H26年度	観光消費額:28億 宿泊者数:178,400人	目標 H31年度 観光消費額:29.5億 宿泊者数:187,300人

事業名②	外国人観光客を主なターゲットとする信州シルクロードを核とした広域観光連携事業			
目的	信州に集積している地域資源「絹」を最大限有効活用し、「絹」という統一テーマで連携して広域観光事業を行うことで、増加傾向にある外国人観光客を主なターゲットとした交流人口の増加、事業機会の創出、雇用の増加等により、ポテンシャルが高い信州の観光産業の縮小と人口減少という共通課題を解決する。			
実施内容	信州シルクロード連携協議会の構成員を中心とした信州の15市町村、事業者、民間団体、大学が一体となり、外国人観光客の集客を図るために、次の事業を実施する。 ・外国人観光客向け信州シルクロードのPRイベント ・外国語対応した信州シルクロードの総合的に発信するHP立ち上げ、各地域のコンテンツ拡充 ・外国人観光客向け信州シルクロード広域観光周遊モデルルートの開発、調査			
本事業における重要業績評価指標(KPI)	ワークショップ参加者数:30人 HPアクセス数:5,000人/月	本事業におけるKPIに対する成果	ワークショップ参加者数:43人 HPアクセス数:2,571人/月	
達成度	A:達成	B:概ね達成	C:未達成	B

事業費

(単位:円)

総事業費	1,978,560	交付金充当額	1,978,560	交付金対象外経費	0
------	-----------	--------	-----------	----------	---

平成27年度の取り組みと課題

<p><取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・シルクに関する産業・文化に注目が集まっているこの時期を好機ととらえ、日本におけるシルクの交易路をたどる「信州シルクロード」をキーワードに、「地域」、「人」、「もの」、「歴史・文化」、「産業」をつなげるあらたな交流ルートを創生するため、駒ヶ根市から岡谷市を中心とした諏訪地域、上田・須坂の関連施設を周遊する「信州シルクロード」観光ルートの開発及びツアー造成を行った。 ・シルクロード広域観光ルートの開発にあたり、開発会議(ワークショップ)を立ち上げ、地域住民、観光協会、商工会議所、金融機関、自治体関係者等のほかに、首都圏の大学生や着地の信州の大学生、外国人(インバウンドに携わる者)も組織に加え、既存の旅行会社目線のツアー造成とならないようにした。
--

今後の取り組み

<ul style="list-style-type: none"> ・外国人観光客向け信州シルクロードのPRイベントの開催地を拡大するとともに、開催地との相互連携を深化させ、双方間での交流人口増加に取り組む。 ・信州シルクロードHPのコンテンツの拡充をさらに進め、情報の集約化、ワンストップ機能の強化を図る。 ・広域観光ルートの拡充を図るため、富岡製糸場、八王子、横浜などの他地域との連携により周遊による滞在型モデルルートを開発する。 ・有機的な観光産業と絹関連産業の連携を推進する。

外部有識者の効果検証

<p>A: 総合戦略のKPIのH31年度目標達成に向けて有効であった B: 総合戦略のKPIのH31年度目標達成に向けて有効とは言えない</p>	B
--	---

外部有識者の意見

<ul style="list-style-type: none"> ・外国人向けに県内の絹関係の施設をどのように観光に結びつけ、広域で連携していくのかモデルコースの提示等を期待したい。 ・下諏訪町において、外国人観光客を受け入れる体制がどの程度整っているのか検証が必要である。

地方創生先行型事業評価シート

	担当課	産業振興課商工係	事業NO.	8	
総合戦略における基本目標	基本目標1 地域の資源を活かし、誰もが働きやすい環境をつくることによって、就労機会の増加をめざす【雇用】				
総合戦略における重要業績評価指標(KPI)①	新規分野製品市販化件数及び新規特産(土産)品開発件数	現状 H26年度	市販化件数:2件 特産品開発件数:1件	目標 H31年度	市販化件数:4件 特産品開発件数:5件

事業名②	諏訪圏6市町村によるSUWAブランド創造事業			
目的	諏訪圏6市町村が広域で一体となり、これまでの諏訪地域の強みである高度な精密加工技術と恵まれた自然環境を活用して、成長産業等の高付加価値な事業分野への進出を図り、所得水準の高い仕事の獲得と諏訪地域のブランド化を実現することにより、産業の振興と質の高い雇用の増加を目指し、もって諏訪地域の産業の縮小と人口の減少という課題を解決する。			
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・諏訪圏6市町村、域内に立地する大学(信州大学、諏訪東京理科大学)及びNPO法人(諏訪圏ものづくり推進機構)が広域に連携して、5か年に亘る新事業進出支援ならびに「SUWAブランド」確立のための取組を行う。 ・労働生産性の向上や付加価値の高い事業分野への進出、質の高い働き口の確保を実現する。 ・工業及び商業等が一体となった「SUWAブランド」として当地域発の製品・商品・地域資源のブランド化を実現する。 			
本事業における重要業績評価指標(KPI)	①についての研究会参加者数:30人 ②についての研究会参加者数:30人 ②についてのセミナー参加者数:140人	本事業におけるKPIに対する成果	①についての研究会参加者数:28人 ②についての研究会参加者数:70人 ②についてのセミナー参加者数:165人	
達成度	A:達成	B:概ね達成	C:未達成	A

- ①:小型ロケット製作を通じたものづくり技術の高度化と人材育成
②:医療・ヘルスケア機器分野への参入に向けた人材育成

事業費

(単位:円)

総事業費	2,300,000	交付金充当額	2,300,000	交付金対象外経費	0
------	-----------	--------	-----------	----------	---

平成27年度の取り組みと課題

<p>(1) 諏訪地域のものづくり技術を生かした新事業進出支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 小型ロケット製作を通じたものづくり技術の高度化と人材育成(継続) ② 医療・ヘルスケア機器分野への参入に向けた人材育成(継続) ③ 次世代産業におけるアドバイザー・コーディネーターの配置 ④ 域内企業の新分野進出等に向けた新製品開発等の支援(補助金) <p>(2) 工業と商業等が一体となった「SUWAブランド」の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 域内ものづくり企業製品の出張展示・商談会及び域外技術者等と呼び込む移住セミナー等の開催 ② 「SUWAブランド」発信拠点の強化

今後の取り組み

<p>① 小型ロケット製作を通じたものづくり技術の高度化と人材育成については、指標値を上回ることができるよう、域内企業への周知に努める。</p> <p>② 医療・ヘルスケア機器分野への参入に向けた人材育成については、今後も、指標値を上回ることができるよう、積極的な取組を行う。</p> <p>(取組み方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・域内企業の技術力向上、人材育成を行う。 ・成長産業(医療・ヘルスケア等)への参入支援を行う。 ・質の高い働き口の創出、労働生産性の向上、諏訪地域のブランド化を図り、計画の最終年である平成31年度には、域内全体の製造品出荷額等:7,200億円(リーマンショック前)を目指す。

外部有識者の効果検証

<p>A:総合戦略のKPIのH31年度目標達成に向けて有効であった B:総合戦略のKPIのH31年度目標達成に向けて有効とは言えない</p>	A
--	---

外部有識者の意見

<ul style="list-style-type: none"> ・地域が連携し、地域にある技術や人材を活用して新事業へ進出することは今後ますます必要となる。 ・付加価値の高い新たな事業への進出とともに、就労の機会の増加につながることを期待する。
